

林業相談

グイマツ雑種 F<sub>1</sub> の生長

問 雑種カラマツを造林したいのですが、この樹種はいままでのカラマツにくらべて、どのくらい生長がちがうのでしょうか。 (津別町 B生)

答 各種の雑種カラマツのうち、現在事業的に生産されているものは、グイマツ雑種 F<sub>1</sub> という品種です。これは“野鼠に食害されにくいグイマツ”と“生長、形質のよいカラマツ”との交配種です。この品種は両親種の好ましい性質をかねそなえています。

当場では、昭和46年から各地の道有林内にカラマツ類の検定林を設け、生長や被害抵抗性の検定を行っていますが、このうちからグイマツ雑種 F<sub>1</sub> の林齢10年までの成績(樹高と直径の生長量)について紹介します。

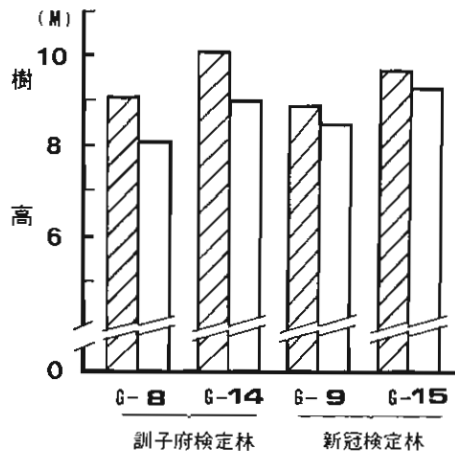
(樹高) グイマツ雑種 F<sub>1</sub> の樹高は検定林によって異なりますが、約9.5mと大きな生長をしています。北海道民有林のカラマツ林収穫のI等地(10年生)の主林木平均樹高は8.6mですから、これに対してグイマツ雑種 F<sub>1</sub> は約110%も良い生長をしています(図)。

(直径) グイマツ雑種 F<sub>1</sub> の胸高直径は検定林によって異なりますが、約10.6cmでした。育種カラマツは約10.9cmですからこれらはほぼ同等の生長といえるでしょう。前述の収穫表の主林木平均胸高直径は9.0cmですから、これに対してグイマツ雑種 F<sub>1</sub> は約118%の生長をしています。

ちなみに、検定林におけるグイマツ(もう一方の親種)の樹高は7m、胸高直径は7cm程度となっています。

このように、グイマツ雑種 F<sub>1</sub> はその両親種より樹高生長がよく、また直径生長で育種カラマツと同等の大きな生長をしています。“このような生長の優位性がどの林齢まで続くのか”の検討もしていますが、東大演習林の報告によれば、この旺盛な生長は23年生現在でもつづいているとのことです。

(育種科 高橋幸男)



10年生の樹高生長  
 〰️ グイマツ雑種 F<sub>1</sub>    □ 育種カラマツ  
 G 8 ~ 15 は検定林番号